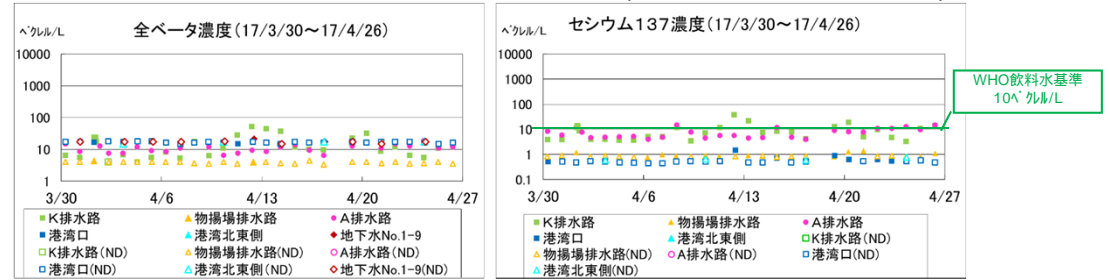


- 前回(3月30日)以降のデータ公開数は約8,200件
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約8,200件を公開しました。
- 1号機建屋カバー壁パネル取外し完了 敷地内ダスト(粉じん)濃度は安定
1号機では、原子炉建屋カバー解体工事において、屋根パネル取外し(2015年10月5日)以降、ダスト飛散防止対策として散水設備の設置、崩落屋根上の小ガレキ吸引、飛散防止剤散布などを経て、2016年9月13日より壁パネルの取外しを開始し、11月10日に最終18枚の取外しが完了し、オペフロ調査を実施しています。これまで、敷地境界を含め、敷地内ダストモニタのダスト濃度に有意な変動は確認されていません。なお、4月6日にモニタリングポストNo.8(MP-8)付近に設置したダストモニタにおいて警報が発生しましたが、現場のモニタリング等を行い異常のないことを確認するとともに、念のため当該機器の交換を実施しました。今後も、飛散抑制対策の実施とともにダスト濃度の監視をしっかりと継続していきます。
- 港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定
4月に入って、降雨等の影響により、港湾内海水の放射性物質濃度に一時的な上昇が見られますが、港湾内北側の海水中セシウム137濃度は、上昇時も1 Bq/L前後に留まっています。引き続き港湾内の水質を監視していきます。

A 水(海水、排水路、地下水等)

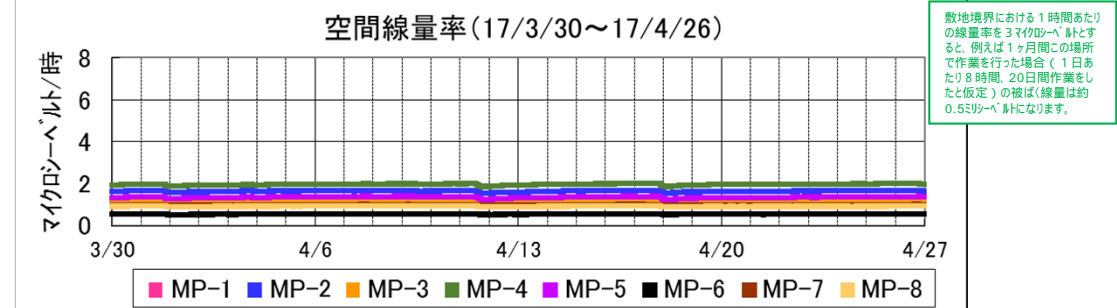
- K排水路では、降雨時にセシウム137、全ベータ濃度が上昇。
- セシウム137は、降雨時のK排水路を除き概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。
(地下水 1-9については全ベータ濃度で監視)



全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。
海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。
(ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。
4/18は悪天候のため欠測。

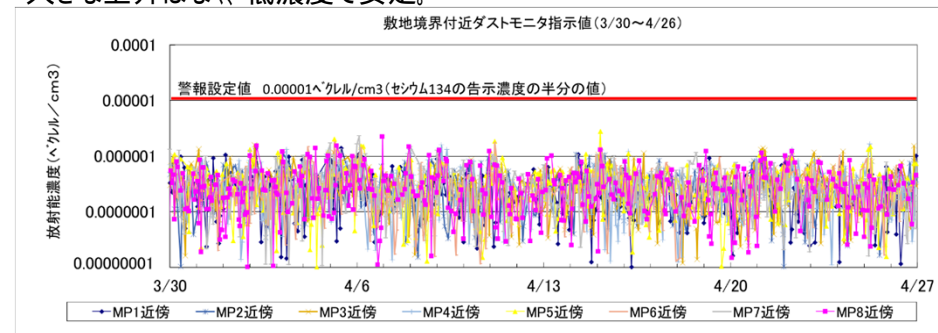
B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。

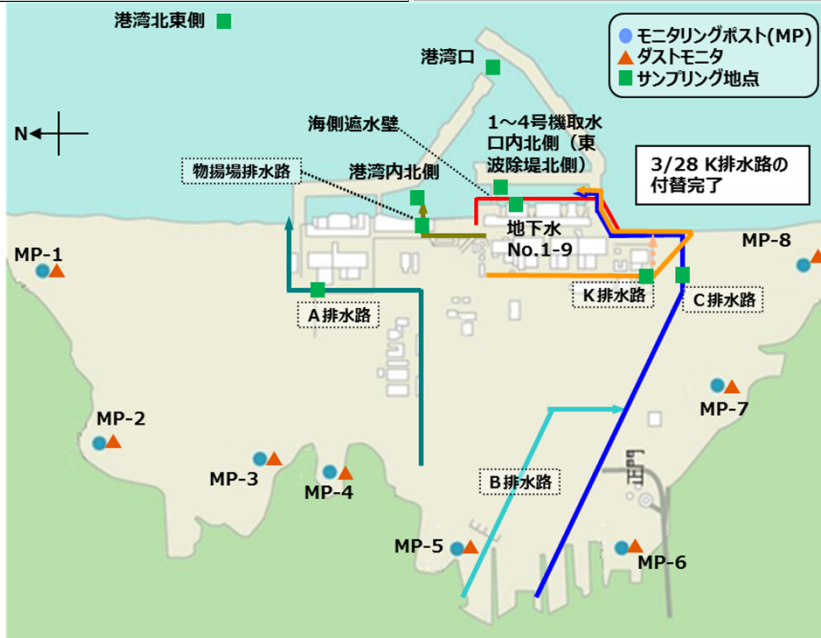
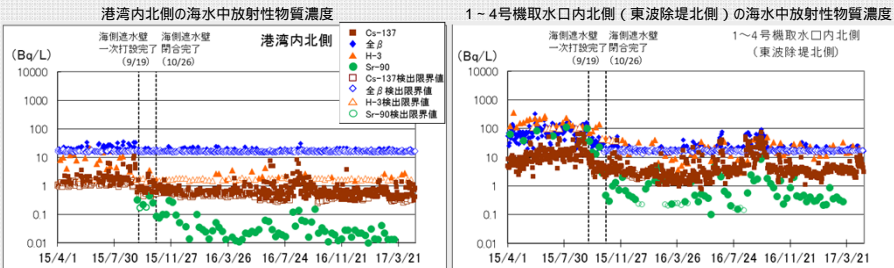


C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。



告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

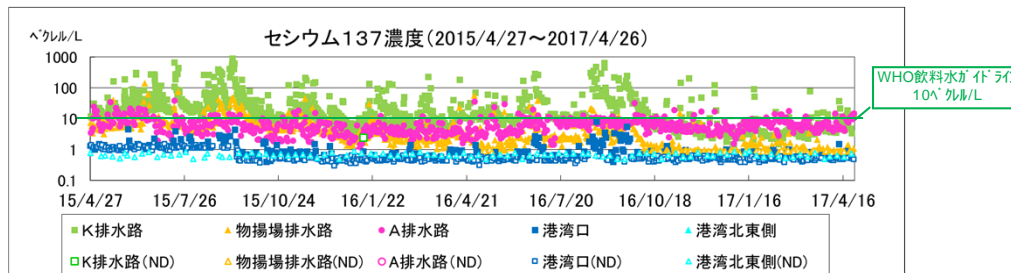
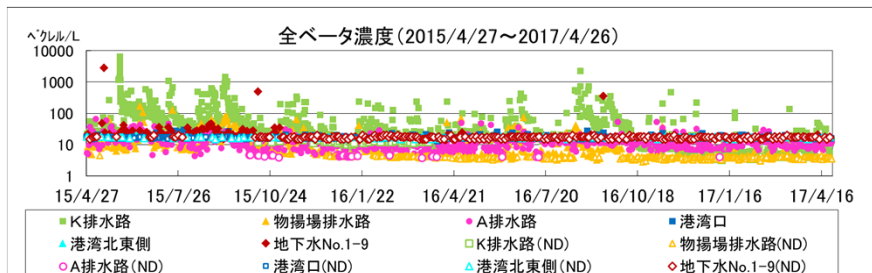


データ採取位置図(右のA、B、C等に対応するポイント)

放射線データの概要 過去の状況

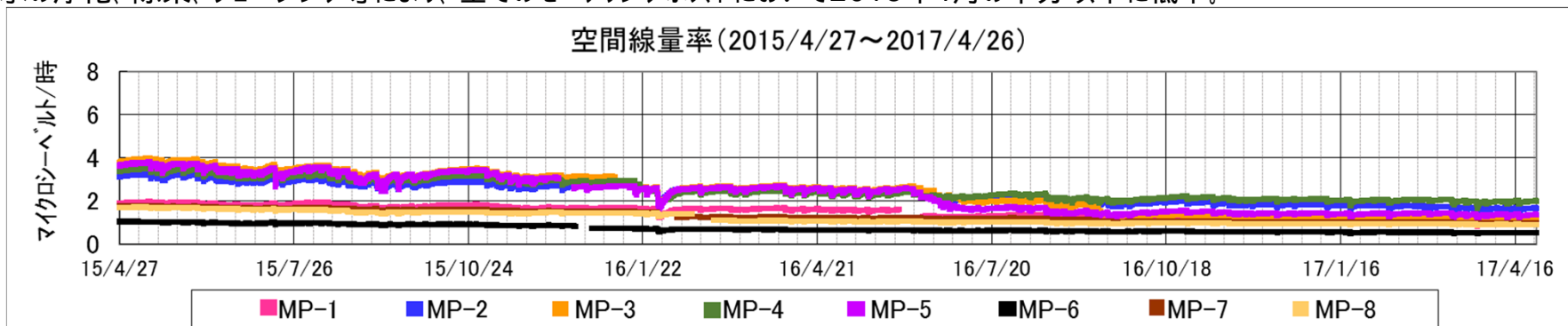
A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路の降雨時の濃度上昇は減少傾向。引き続き清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



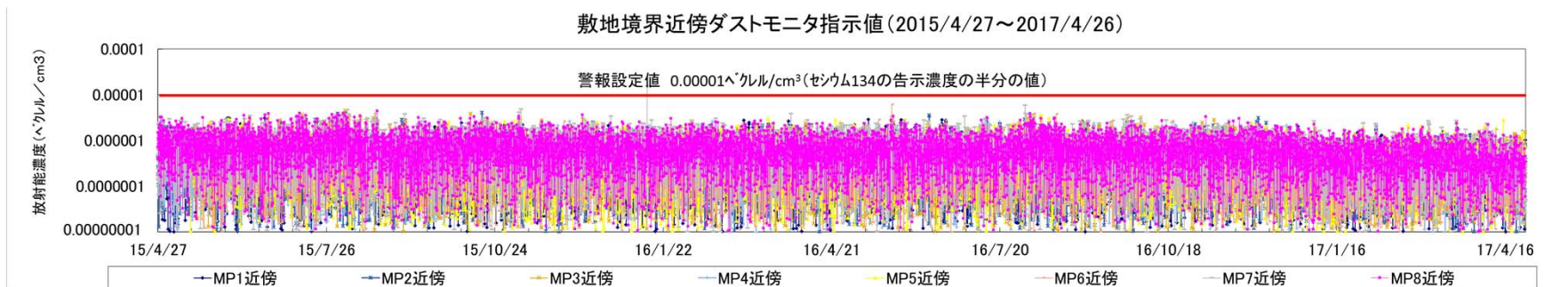
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の半分以下に低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



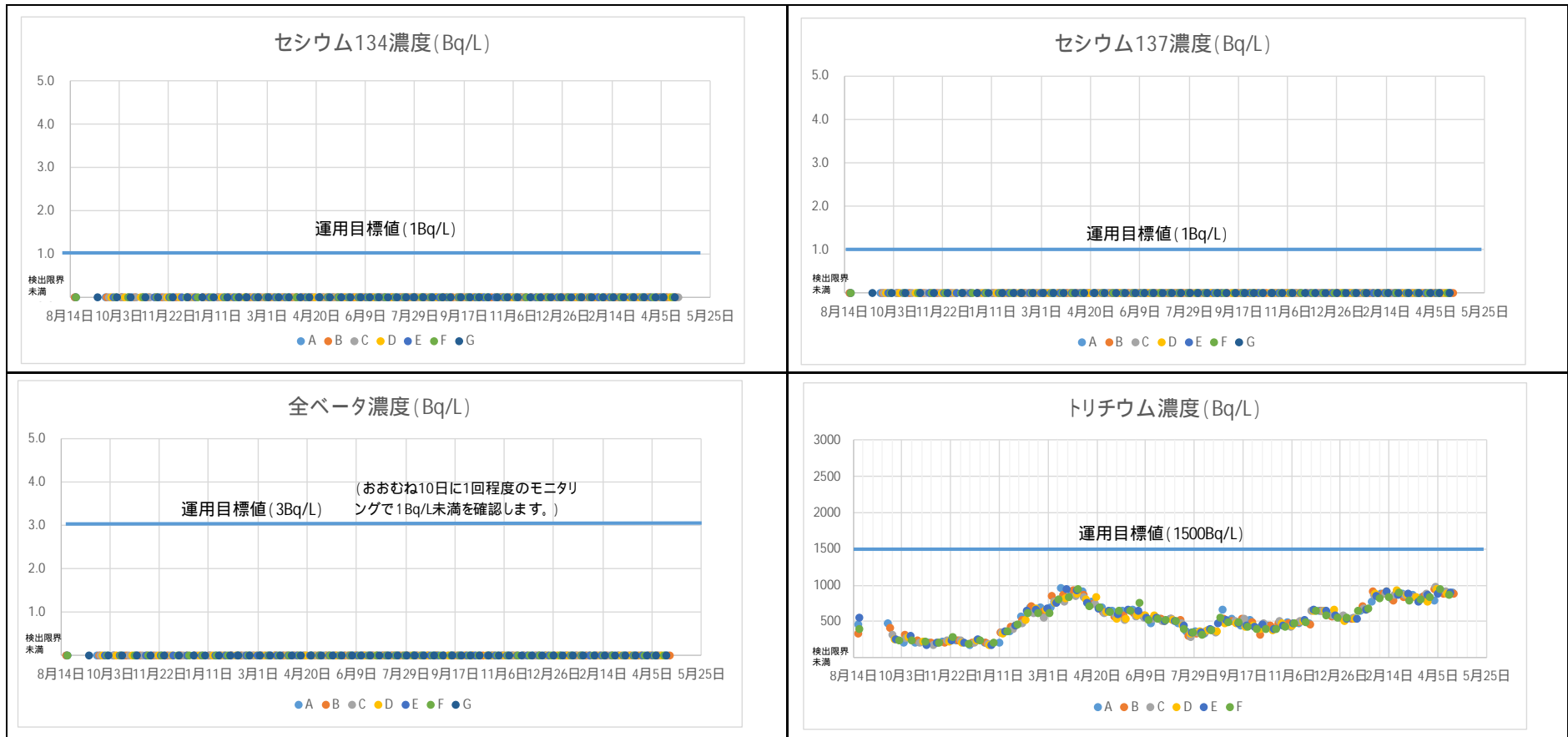
・MP3,5,6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2017年4月25日までに合計381回、315,494m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd> をご覧ください。

1号機タービン建屋の滞留水除去における線量低減対策について

- 1号機タービン建屋の滞留水除去において、滞留水がタービン建屋地下1階中間部まであったこともあり、滞留水移送配管設置エリア周辺の空間放射線量は最大で約9mSv/hと高い箇所があった。
- 滞留水を除去するには、滞留水移送ポンプを追加設置する必要があるため、タービン建屋地下1階中間部周辺の線量を低減させる必要があった。
- 線量低減対策として、遠隔除染装置と人手による床面上の除染や配管フラッシング、遮へい体の設置等を実施。
- これにより、最大約9mSv/h あった空間放射線量は 約1mSv/h にまで低減。
- 作業にあたっては、低線量である1号機タービン建屋1階に作業拠点を設置して高線量エリアから距離をとるとともに、作業本番で効率的な作業ができるようモックアップで習熟訓練を実施し、高線量エリアでの作業時間短縮に努めた。
- その結果、滞留水移送ポンプ追設作業における総被ばく線量（人・Sv）は、計画：約2.9人・Svに対し、実績：約2.0人・Svと約3割程度軽減して、1号機タービン建屋の滞留水を除去。
- 今回の1号機タービン建屋滞留水除去における線量低減の知見は、今後の2～4号機の建屋内滞留水除去に活かしていく。

線源

< 遠隔除染装置による除染 >



除染前

除染後

< 配管フラッシング >



高圧ポンプユニット設置作業

< 遮へい体設置 >



設置前

設置後

距離



遠隔除染装置による除染



低線量の作業拠点

時間

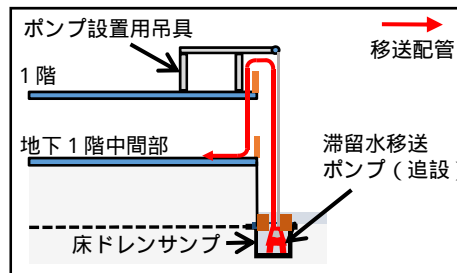


モックアップでの習熟訓練（架台設置）



モックアップでの習熟訓練（鉛板設置）

タービン建屋滞留水除去の概要図



< 滞留水移送ルート of 工夫 >

滞留水移送ルートは当初、ポンプ（最下階）から地下1階中間部への移送ラインを検討していたが、地下1階中間部の移送配管敷設エリアの空間放射線量が高かったため、敷設作業にともなう被ばくを低減するため、低線量の1階を経由したルートで敷設した。